

SALVADOR

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会報

代表：松本敏之、大倉一郎
 事務局：横浜港南台教会 中沢 謙
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29
 Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616
 郵便振替口座番号：00210 - 2 - 97571

抵抗の底力はどこから

小井沼眞樹子

☆日本の春に

昨秋の一時帰国から5ヶ月後の3月に、再度一時帰国しました。三男の結婚式に参列することが直接の理由でした。

國光の告別式をしてから11年後、同じ日本聖書神学校の新チャペルで、今度は秋吉隆雄牧師の司式のもとで末息子の結婚式を行うことができ、感無量。安堵しました。

滞在中は年度の変わり目で、教会総会や受難週、復活祭で日曜日の予定が詰まっていたため、池袋西教会で宣教報告会を持った以外は仕事がなく、母国語の交わりによって充分英気を養い、5月11日に再度サルバドールに戻りました。



☆現実を見据える

i ヴアレリオ・シルヴァ教会の現実

長旅の疲れと、時差と気温差をゆっくり調整するはずが、現実はその甘くなかった。着いた翌週は母の日の礼拝で、主任牧師がお連れ合いを母親の住む隣の州の町に連れて行くので、戻って来れないと言います。前の日曜日には、最高齢の信徒が階段で転んで頭を怪我するというハプニングがあり、救急病院に連れて行ったために説教ができなかったそうです。マキコはまだ代行は無理だろうから長老Gさんに礼拝の件は頼んであるというのですが、それでは協力牧師として私の気が済み

ません。時差で朦朧としながら何とかメッセージを仕上げ、日本で習い作っておいたバラの折り紙を使って飾りつけ、母の日らしい礼拝を捧げることができました。初めは少人数でしたが、後から参会者が増えて、最後には大人8名、子供4名の礼拝に。大きな喜びと感謝で満たされました！



留守中、教会の懸案事項は何一つ解決に向けて動いておらず、2ヶ月間、時が止まっていたかのようです。小さな者に課せられている任務と責任を改めて認識し、この群れを愛し、仕えていこうとの思いを強めています。

ii ブラジル社会の現実

ブラジルの政治状況については正直なところ明確に述べることはできません。

昨年、現職のルセフ大統領を不当な理由で罷免に追いやり、新たに発足した Temer 政権ですが、その弾劾裁判の陰にはアメリカからの多額の資金が送り込まれ、賛成投票した議員に配られていたとか。また罷免を主導した下院議院議長も、ほどなく巨額の汚職が摘発されて牢獄入り。その他、今に至っても次々に発覚する現行政府要員の汚職に、ブラジリア政府は混乱し、日夜ニュースが流れています。門外漢の眼から見て、権力を握った泥棒集団が、いくらか成長していた民主社会を根こそぎに潰しているという感じ。Temer 政権は小農民や先住民、労働者など社会的弱者の人権や生活保障を踏みつけにして経済回復を優先する「福祉行政改革」を推進中ですが、

それに対する民衆の反発と抵抗運動も激化していることは確かです。去る4月28日にはブラジル史上最大のゼネストが行われ、ろうどうくみあいのみならず農民運動、様々な市民運動もそこに合流したといえます。



社会全体が危機的状態に追いやられているのですが、民衆の抵抗力はそがれるどころかますます熱く燃え広がっていくようです。サルバドールでもデモ行進に出会いますが、そこには悲壮感がなく音楽や鳴り物入りでお祭りのような楽しさ、陽気さで行われているのを見るにつけ、ブラジル人特有の強力なエネルギーに敬服します。

☆対話、祈り、聖書黙想

そのような混沌とした社会状況のなかで、6月4日までの10日間に、身近に有意義な企画が3件開催されたので参加しました。

i レオナルド・ボフとの対話 5月25日

L. ボフはかつてカトリック司祭で、解放の神学の旗手の一人として多数の書物を著わし、意識化運動を導いた人。バチカンによる迫害が顕著になった1985年に、1年間の沈黙命令を受けて司祭職を辞し、以後リオの州立大学で教鞭をとりながら(現在は名誉教授)今も幅広く精力的に市民社会のオピニオンリーダーを務めている人物です。



テーマ=危機から希望へ：生きやすい世界へ
向かう新しい道 *訳注 - 道は複数形

会場に入りきれないほどの聴衆が詰めかけ、現代社会情勢への鋭い分析と批判、英知に満ちた洞察と適格な助言を聴きました。それから質疑応答が続き、会場は熱気に包まれ、最後は友愛と感謝の心をこめた割れるような拍手でした。ボフは現在78歳。教皇フランシスコの出現を誰よりも喜び、講演中でも何度も教皇について言及していました。

以下、理解した範囲での講演内容を要約。

- ①新自由主義に対して断固としてNOと言わなければいけない。貧困と不平等、抑圧を生み、人間のみならず自然をも生存が脅かされている。地球の方がもう持たないだろう。
- ②私たちは互いを思いやり、助け合う新しい心と精神を持とう。
- ③各人は種、小さくても芽生え育ち、花が咲き、実りをもたらす。そこには希望がある。自分ならではの主体的生き方が大切だ。
- ④世界を変えるのは、大きなプロジェクトではない。置かれた場所での人間らしさを生み出す様々な小さな取り組みがもっと増えてつながり、世界全体の流れを変えていくというあり方がよい。
- ⑤(「解放の神学は生きていますか」との質問に対して) 抑圧の状況が世界中に拡大している今こそ、解放の神学は生きて、有用なものとなっています。

ii キリスト者一致祈禱週間

サルバドールにはCEBIC=セビッキ(バイア・キリスト者エキュメニカル協議会)というグループがあり、毎年ペンテコステ(聖霊降臨日)の前に「キリスト者一致祈禱週間」を行っています。その世話役ネルソン牧師(ルーテル教会引退牧師)はサルバドール合同長老教会のソニア牧師のお連れ合い。この夫妻が、私を幅広い教会の交わりに連れ出してくださいませ。

今年の祈禱週間は、宗教改革500年を記念して、ドイツのルーテル教会が用意した式文に沿って行われました。

テーマ：和解
キリストの愛が私たちを駆り立てている。

(Ⅱコリ 5, 14)



参加した教会：
カトリック教会、
聖公会、
ルーテル教会、
バプテスト教会、
合同長老教会。
それぞれの教会で合
わせて7つの集会在
持たれた。

①開会礼拝 5月27日

サント・アントニオ・ダ・バーハ教会



私たちを分断する石は何だろうか？
憎しみ、差別、孤立、権力欲、金銭崇拜…
12個の石で壁を作り、それを壊して十字架
を組み立てる作業で、壁はすぐにでき上がる
けれど、十字架が形作られるまでにはもう少
し時間がかかることを体験しました。

②祈り会 5月30日 トリンダージ共同体
緑の枝で組まれた十字架に、各自がろうそ
くに火を灯して立て、庭で咲いた花々で飾
り、賛美歌を歌いながら、十字架に希望の光
を見つめて祈る静かな時が流れ…



③閉会礼拝 6月4日(ペンテコステ)

サルバドール合同長老教会



右側がネルソン・ソニア牧
師夫妻。旅行中で準備に関わ
らなかった私は壇上に上がら
ず会衆といっしょに。



iii シゲ神父の聖書講座 6月1-3日

テーマ：メシア運動とナザレのイエス

場 所：メルセダリア女子修道会



8年ぶりにシゲ神父と再会。相変わらずエ
ネルギーッシュなシゲの講義、聖書の歴史社会
的コンテキストによる徹底的な分析と、黙想
による霊的読解の併用によって、ナザレのイ
エスは私にとってまた共同体にとってどうい
うメシアなのかを深める共同学習でした。

ヴァレリオ・シルヴァ教会の新会堂建築
献金へのご協力をお願い

総工費見積もり：500,000レイス
(1レイル=30円に換算して約1500万円)

ブラジル全土の合同長老教会、および米国の合同
長老教会にも募金への協力を呼びかけています。
日本では「共に歩む会」の会計を窓口にして「建築
献金」と指定し、お捧げいただければ幸いです。
皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

会計報告

2016.12.1～2017.5.30

収入		支出	
項目	累計	項目	累計
会費・特別献金		支援金	
利息		海外保険	
		事務費	
		振込手数料	
		集会費	
小計		小計	
前月繰越金		次月繰越	
合計		合計	

収入		支出	
項目	累計	項目	累計
会堂建築献金		支援金	
前月繰越金		次月繰越金	
合計		合計	

献金者名(敬称略・順不同)

(91名)

会堂建築献金

(24名)

編集後記

T. S (横浜港南台教会員)

桜の咲く三月、ご子息の結婚式に参列されるため帰国された眞樹子先生と、嬉しい再会の時を持つことが出来ました。先生にとってお喜びの日々であった事と、心からお祝い申し上げます。二か月程の滞在後、再びサルバドールへ戻られました。早々に盛り沢山の御用が先生を待ち受けておられ、それをご自分の与えられた使命と受け止めて歩まれる姿を垣間見る思いです。母の日の礼拝に手作りのバラの折り紙を飾られ、出席

された方々の喜びのお顔が目浮かぶようです。また社会情勢の危機的状況の様子と、それに対する抵抗勢力。陽気に振る舞う中にも、熱く燃え広がる底力を感じました。五月末から企画されていた集会に出席され、お疲れを取り去るほどの良い会であったと受け止めました。これからは様々な懸案事項があるかと思いますが、先生の傍らに神様がいつも寄り添い支えて下さいます様祈ると共に、これからの働きとご健康を心からお祈り申し上げます。